

ワークショップ 1

「 Class III 」を減らすために ―唾液腺―

慈泉会相澤病院 病理科 ^{ひぐち かよこ}樋口佳代子 (MD)

【はじめに一唾液腺腫瘍の組織学的特徴一】唾液腺腫瘍は多彩な組織像を示しその分類も複雑である。その理由は腺管上皮成分とともに、多くの腫瘍において腫瘍化した筋上皮細胞が多彩な組織増殖パターンを示すことによる。そのため、ひとつの腫瘍が症例により、あるいは部位により異なる組織像を呈したり、筋上皮成分を含む良性腫瘍と悪性腫瘍が類似の組織像を示すことなどが細胞診断を複雑にしていると推測される。

【 '唾液腺細胞診の新報告様式の提案' について】上記のような唾液腺の組織学的特徴をふまえ2004年に広川らによって提唱された '唾液腺細胞診の新報告様式の提案' では、筋上皮成分を同定するのに有用なGiemsa染色の併用の推奨とともに、病変の組織学的特徴のため「良・悪性診断困難区分」に分類される可能性のある病変として以下の4つの病変を挙げている。1. 異型をしめす良性病変、2. 異型にとぼしい悪性病変、3. 浸潤性の有無により良・悪性が区別される病変、4. 偽篩状構造あるいは基底膜物質が豊富に採取された場合である。

【「 Class III 」を減らすために】唾液腺の細胞診断にあたっては上記のような病変群の存在を念頭においた上でそれぞれの細胞学的特徴に習熟することが「 Class III 」を減少させることにつながると考えられる。